

L-ラムノース

英名 : L-Rhamnose

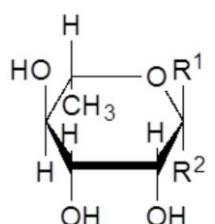
CAS No. 10030-85-0

JECFA No. 該当なし

別名 : L-Rhamnopyranose monohydrate

6-Deoxy-L-mannose

構造式 : C₆H₁₂O₅ · H₂O



α-L-ラムノースピラノース : R¹=OH, R²=H

β-L-ラムノースピラノース : R¹=H, R²=OH

1. 基原・製法

本品は、ルチン（抽出物）（アズキ (*Vigna angularis* (Willd.) Ohwi & H. Ohashi) の全草、エンジュ (*Styphnolobium japonicum* (L.) Schott (*Sophora japonica* L.)) のつぼみ若しくは花又はソバ (*Fagopyrum esculentum* Moench) の全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう）又はアマダイダイ (*Citrus sinensis* (L.) Osbeck) 若しくはウンシュウミカン (*Citrus unshiu* (Swingle) S. Malcov.) の果皮、樹皮若しくは花に含まれる配糖体又は大豆油、菜種油若しくはコーン油を発酵、濃縮分離して得られたラムノ脂質を、加水分解し、分離して得られたものである。成分は、L-ラムノースである。

2. 主な用途

甘味料

3. 安全性試験の概要

1) 急性毒性試験

経口投与の情報なし

2) 反復投与毒性試験

反復投与に関する情報なし

3) 変異原性試験

細菌を用いる復帰突然変異試験 (Ames 試験)、細菌を用いる染色体異常試験、マウスを用いる小核試験を実施し、いずれも陰性であった¹⁾。

4) その他

その他試験に関する情報なし

5) 海外評価書における扱い

海外での評価情報なし

4. 食品添加物公定書の規格

規格あり

5. 結論

L-ラムノースは、基原、製法及び本質と、入手可能であった安全性試験の情報（変異原性試験）に鑑み、現状の食品添加物としての使用において、ヒトの健康影響に対する懸念はないものと結論された。

6. 参考資料

第9版食品添加物公定書解説書 2019